

蟹江町制施行130周年 横江淳一町長インタビュー

住民と協働で 住みよい まちづくりを推進

明治22（1889）年10月1日に蟹江本町村、蟹江新町村、今村の3村と西福田村の一部地域が合併して、蟹江町が誕生した。今年、町制施行130周年を迎える蟹江町の魅力やまちづくりについて、横江町長に話を聞く。



profile
蟹江町長 横江 淳一
昭和26年9月6日蟹江町生まれ。大阪産業大学短期大学部自動車工業科卒業。名古屋トヨペット、家業の宇佐美自動車商会を経て、平成7年に蟹江町議会議員に。平成17年、蟹江町長に就任。現在4期目。趣味はキャンプや渓流釣り

歴史や文化、自然など 魅力を生かした観光振興

蟹江町は130年の歴史を紡いできました。町長は68歳で、まちが歩んできた約半分の時間を間近に過ごしてこられました。一番印象深いまちの変化は何でしょうか。

「須成祭で目にする、川をゆく祭船の姿は風情ある景色ですね。そんな蟹江町の魅力を教えてください。」
歴史と文化です。ユネスコ無形文化遺産に登録された須成祭は、約400年の長きにわたって受け継がれてきました。由緒ある寺社も多く、蟹江合戦で知られる蟹江城、推理作家の小酒井不木などもそうです。加えて、文豪吉川英治が「東海の潮来」と呼んだ河畔の景観をはじめとする自然も魅力になっています。

「逆に課題はありますか。」
以前は、今挙げたような観光資源（魅力）を積極的に発信していませんでした。私が町長に就任し、特に力を注いできたのが観光振興です。外国人を含めた観光客が増加しましたが、滞在時間が短く、地域経済への貢献度が低いのが課題と言えます。

いろいろと思いつかびますが、この庁舎でしょうか。私が子どもの頃、ここら一帯はクリーク（水路）が縦横に走っていて、周囲には田んぼが広がっていました。クリークで泳いだ記憶もあります。それが今では町役場が建ち、その中で私が町政の運営をしているのですから。

「観光散歩マップ」を作成したり、鉄道のウォーキングイベントを誘致したりと、町内を回遊していただくよう努めています。昨年5月には、観光の拠点となる観光交流センター「祭人」が開館しました。年間の予想入館者数7千人を大幅に上回り、6万人が訪れました。

住民の声を取り入れつつ 魅力あるまちづくりを

「町制施行130周年の記念事業について教えてください。」
私が町内外へ向け、いろいろな機会に「130周年」をPRしていますが、100周年の時のような大きな記念事業は特別行いません。記念セレモニーを10月の「かにえ町民まつり」で実施するなど、130周年と冠して既存事業に組み込む形が中心です。11月には100周年記念事業で埋設されたタイムカプセルを開封します。また、町制施行130周年を盛り上げるため、株式会社サンリオの人気キャラクター「ポムポムプリン」と、当町の「かに丸くん」のコラボレーションによるプロモーション事業を展開しています。

「130年という節目を経て、今後のまちづくりについてお聞かせください。」
整備中のJR蟹江駅が来年度完成予定です。工事計画に伴い、駅の北側17ヘクタールを市街化

「広報かにかえ8月号でも、町と川との関係を取り上げていましたね。」
町内には6本の川が流れていて、町域の約2割を占めます。古くから蟹江のまちは川の水運を中心に発展してきた歴史があります。



昭和51年、現在地へ庁舎を新築し移転した蟹江町役場。付随施設として敷地内に体育館も建設された

「しかし昭和34年、地域を襲った伊勢湾台風は甚大な被害をもたらしました。川に対して負のイメージも生まれましたが、近年は川を生かす、さまざまな施策を進めています。」
今年3月には、観光・産業振興を図る「蟹江川かわまちづくり計画」が国土交通省に登録されました。

平成元年
町制施行100周年記念事業の一環で、町民デザインによる「かに丸くん」が誕生（平成20年に命名）
平成10年
新蟹江町図書館開館
平成16年
小酒井不木生誕地碑建立
平成18年
町内に湧き出る温泉を利用した無料の公共施設「足湯かにかえの郷」開設
平成22年
まちなか交流センター「祭人」開館
アメリカ合衆国イリノイ州マリオン市と姉妹都市提携を締結
平成24年
須成祭が国の重要無形民俗文化財に指定
平成26年
設楽町と交流協力に関する協定を締結
平成27年
蟹江高校跡地に希望の丘広場整備
平成28年
須成祭がユネスコ無形文化遺産に登録
令和元年
10月1日に町制施行130周年を迎える



足湯かにかえの郷



かに丸くん

1 観光交流センター「祭人」。1階は交流スペースで、観光情報コーナー、カフェ、蟹江町の特産物やオリジナル商品を購入できる物販ブースなどがある。2階は須成祭の情報を発信する須成祭ミュージアムとなっている。2 町では、高度成長期に汚れた川の環境や景観の再生に取り組んでおり、蘇りつつある川を見てもらおうと「蟹江川鯉飼」を4月に開催。今年で4回目を数える



2

平成30年
観光交流センター「祭人」開館
多世代交流施設「泉人」開館
令和元年
10月1日に町制施行130周年を迎える



▲須成祭
約100日間にわたり祭事が続き、別名「百日祭」とも呼ばれる